

大松だより

発行日 令和6年1月12日
徳島市大松小学校

新しい年2024年が始まりました。子どもたちは希望や目標をもって登校し、のびのびと3学期をスタートすることができています。3学期は、学習のまとめをするとともに、次の学年に向けての準備をする学期です。また、これまでの生活を振り返り、自分や友達の成長に気づき認め合うことを通して、一つの節目となる大切な時期でもあります。子どもたちがより一層充実した学校生活を送り、持てる力を存分に発揮できますように努めたいと思います。ご家庭におかれましても、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染予防に関する健康観察や健康管理に加えて、子どもたちへの励ましを引き続きお願いいたします。

年明け早々に能登半島地震が起き、甚大な被害が明らかになってきています。被害に遭われた方々にお見舞いを申しあげ、一日も早く安心して生活することができますようにお祈りいたします。学校では、近い将来起きると言われている南海トラフ地震に備え、学校や家庭、地域における防災意識を高め、自分の命を大切にする子どもを育てていきたいと思っております。ご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

大谷選手からの贈り物「グローブ」



右利き用 (小)

右利き用

左利き用

大谷選手から贈られた3つのグローブを、1月9日の始業式でお披露目しました。子どもたちは、「うわあ」（大声ではなく、夢見心地の声）という感激の声をあげ、目をキラキラさせながらグローブに心を寄せていました。

まずは、順次クラスごとに、子どもたち一人ひとりがこのグローブを手にして、大谷選手の偉大さを感じ、感謝の気持ちを抱いているところです。大谷選手のメッセージには、「私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。」とあります。子どもたちがこのグローブを見るたびに、偉大な大谷選手のことを思い出し、目標をもって夢や希望の実現に向けてコツコツと努力を積み重ねていってくれることを願っています。

12月の学校生活の様子を紹介します。

人権集会 12月1日



各学年がこれまでの人権学習で学んだことや群読、歌などを発表しました。子どもたちは真剣な表情で聞き合っていました。児童会は人権ボックスに入っていた「友だちにしてもらってうれしかったこと」「友だちががんばっていたこと」などを伝えたり、人権クイズをしたりしました。最後に「手をつなごう」を全員で合唱しました。全校児童、先生方の心を合わせた歌声が体育館いっぱいに響きわたりました。自分も友達も大切にしながら生活していこうという気持ちをもつことができた、心あたたまるすてきな人権集会でした。



狂言・能鑑賞 12月14日



「学校における地域活性化のための文化芸術子供鑑賞・体験事業」として、4～6年生が狂言と能を鑑賞しました。狂言は「柿山伏」を、能は「羽衣」を上演してくれました。「柿山伏」は6年の国語教科書に掲載されています。子どもたちは、狂言のおもしろさや能の特徴的な言い回しを堪能していました。また、能面や能装束、能の楽器等について学んだり、狂言の姿勢を教わったり、能の謡を体験したりしました。「柿山伏の最後、山伏が観念したかのように木から飛び降りたのが伝わりました。」「笛の音がきれいで気持ちいい気分になりました。」「初めて見たけどすてきな芸能だと思いました。」といった感想が子どもから聞かれました。日本文化のすばらしさにふれた貴重な一日でした。